

氏名	松本 悟 教授
こんな研究をしています	<ul style="list-style-type: none"> ・開発援助の制度、効果、影響（国際組織、日本政府、NGO、新興ドナー） ・調査の機能（特に環境・社会影響評価） ・メコン河流域の地域研究 ・開発と環境（自然・社会環境）
こんな成果を挙げています	<p>▼単著 『調査と権力』東京大学出版会、2014年。 『メコン河開発』築地書館、1997年。</p> <p>▼編著（主編者） 『国際協力と想像力—イメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社、2021年。 『NGOから見た世界銀行—市民社会と国際機構のはざま』ミネルヴァ書房、2013年。</p> <p>▼単著論文（査読付） 「中止された環境事業の15年—タイ・サムットプラカン汚水処理事業がもたらしたものの」『環境と公害』49/3、岩波書店、2020年、61-67頁。 「開発協力における調査・権力・倫理性—世界銀行の「調査の失敗」と異なる知の共犯関係—」『国際開発研究』24/2、2015年、35-50頁。</p>
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	<p>上記研究分野以外に、貧困、紛争、資源、森林に関する研究であれば、大学院での指導が可能。研究方法としては、院生の研究目的に沿って、インタビューや文献を研究資料とする質的調査の指導を行う。統計データやアンケートに基づく量的調査については、指導は難しいが助言であれば可能。</p>
こんな授業を行なっています	<p>国際協力の概念やアクター（国際機構、NGO）の役割、開発援助の社会・文化的側面、新興ドナー（中国、韓国、タイなど）、開発や開発援助が少数民族に及ぼす影響について学ぶ。毎回文献を指定し、受講生が分担して講読・発表し、教員が補足的な講義を行う。なお、履修する院生の関心をふまえて、授業内容や使用する文献を柔軟に変更する方針である。</p>
学会や社会でこんな活動をしています	<p>NHK 報道記者（1987-92）、日本国際ボランティアセンター（JVC）ラオス事務所代表等（1992-96、ラオス労働勲章）、特定非営利活動法人メコン・ウォッチ代表理事等（1999-）、国際環境 NGO FoE Japan 顧問（2009-）、アジア太平洋資料センター理事（2010-19）、外務省開発協力適正会議委員（2011-17、20-）、JICA 環境社会配慮助言委員会委員（2011-18、20-）、ジェトロ環境社会配慮諮問委員、外務大臣や環境大臣のもとでの委員など。タイ・チュラロンコーン大学アジア研究所客員研究員（2018年度）。国際開発学会常任理事（人材育成委員長）。</p>
研究分野の基礎文献を紹介します	<p>上記の「成果」に挙げた教員執筆の文献に加えて以下のものを挙げておく。</p> <p>佐藤仁（2016）『野蛮から生存への開発論 越境する援助のデザイン』（ミネルヴァ書房）。</p> <p>野村康（2017）『社会科学の考え方 認識論、リサーチ・デザイン、手法』（名古屋大学出版会）。</p> <p>ザックス、ヴォルフガング編（1996）『脱「開発」の時代 現代社会を解読するキーワード辞典』（三浦清隆他訳、晶文社）。</p>